

水俣病事件に長年向き合い暮らす人々の 生活（QOL）を規定する要因

「自粛」
「同調圧力」
「新たな日常!？」

新型コロナによる
パンデミック

「感染症法」
「特措法」

水俣・芦北地域における
日々の暮らしと生業

水俣病事件
(不知火海沿岸)

生活空間の
再生・維持・継承
(街並み・里山・川・海)

「差別と偏見!？」
「見下しと幕引き!？」

地域固有の風土・歴史・文化
と未知の社会的災禍のリスク

2003水俣土石流災害
(宝川内・新屋敷)

2016熊本地震

2020熊本豪雨
(人吉・球磨・坂本
芦北・津奈木)

ハード面の「強
靱化」を中心に
据えた災害対策

「特措法」
「環境アセスメント
各種の
「指針・マニュアル」

大規模風力発電所計画
(大関山、国見山、御岳、亀齢峠)

「クリーンエネルギー!？」の押し付け
外部資本による「自然資源の収奪!？」

そこに生きる
人々の「多様な想
い・懸念」への配
慮のなさと「内発
的な取り組み」の
阻害

「ふるさと」の見究め方*

- 空間の構造を認識する

地域の山、尾根、里山、林道、けものみち、水源用（湧水）、水路、田畑、住居、生活道路などの骨格（空間要素の配置関係）を明らかにする ← 「地元学」（住居、田畑、水回り）

- 空間の履歴を掘り起こす

自然*（生態系）と人々の暮らし、生業、生活文化の蓄積（歴史的全体像）＝「風土」を基礎とし、現在の状況にどのように繋がっているのかを丹念に描き出す。

そのためには、空間の構造、地名などの意味を考えることが必要。

- 人々の関心・懸念を把握する

過去（数世代前）から連綿と続く地域での生活において、そこに暮らす人々が何に関心をもち、今、何を心配しているかについて、一定の時間を共有しながら、じっくりと一人ひとりの「思い」を表現できる場を持つ。

* 人間は自然の一部として、多様な生態系のつながりの中で活かされている存在である

*参考 空間の価値構造認識：
「日本文化の空間学」 桑子敏雄 編（2008）